

虚血性心疾患に関する Q & A

Q. 虚血性心疾患はどういう病気ですか？

A. 心筋が必要とする血流を冠動脈が十分に供給できないことによって、狭心症とよばれる症状を呈したり、心臓の機能が悪くなったりする病気のことです。冠動脈の血流低下にともなって心筋細胞が壊れてしまっている状態を心筋梗塞と呼びます。

Q. 狭心症になるとどのような症状がみられますか？

A. 胸が痛くなる、胸全体が締め付けられる、あるいは胸が圧迫されるという症状がよくみられます。早歩きで歩いたり、階段をのぼったりしたときに症状が悪化し、休むと 3-5 分程度で改善することが多いです(労作性狭心症)。ただし、必ずしも典型的な症状を示すとは限らず、息苦しさや動悸が唯一の症状のこともあります。夜間から朝方に胸が苦しくなるタイプの狭心症もあります(異型狭心症)。1 か所を押すと痛みが増強する場合や、症状が数秒で消失する場合は狭心症以外の原因が考えられますが、ご心配であれば是非一度ご相談ください。

Q. どういう人が虚血性心疾患になりやすいですか？

A. 55 歳以上の男性、65 歳以上の女性に虚血性心疾患が多いことが知られています。この他に、タバコを吸われている方、高血圧や糖尿病をお持ちの方、LDL コレステロールが高い方は虚血性心疾患になりやすいことが知られています。このような虚血性心疾患になりやすい特徴のことを危険因子と呼びます。危険因子が多いほど虚血性心疾患になりやすいと考えられます。ただし、これらの危険因子を管理することで虚血性心疾患の予防が可能です。循環器内科では危険因子の管理も積極的に行っております。

Q. 狭心症はどのように治療しますか？

A. 狭心症の治療には大きく 3 つあります。薬物療法、カテーテル治療、バイパス手術です。薬物療法はβ遮断薬や硝酸薬を用いて、症状の改善をはかる治療です。ただ、冠動脈の狭窄が高度な場合は、なかなか症状の改善が得られないことがあり、カテーテル治療やバイパス手術による治療を検討します。治療方針を決めるためには、まず冠動脈の状態を検査で調べる必要があります、この検査には外来でできる冠動脈 CT 検査と入院して行うカテーテル検査があります。冠動脈の狭窄が何か所あるか、冠動脈のどこに狭窄があるか(血管の根本に近いところか、先端に近いところか)などの情報を総合して治療方針を決定します。カテーテル治療は、血管の狭い部分を風船やステントによってひろげる治療で、バイパス手術は血管の狭い部分の先にバイパス血管をつなぐ手術です。循環器内科では、薬物療法とカテーテル治療を行っております。

Q. カテーテル治療は大変でしょうか？

A. カテーテル治療は局所麻酔で行われ、1 時間から 2 時間程度で終わることが多いですが、複雑な病変の場合はもう少し時間がかかることもあります。最近では手首の血管からカテーテルを行うことが多く、カテーテル治療終了後に比較的早い時間で歩行が可能となりますが、病変によっては足の付け根からカテーテルを行わせていただいております。最初に血管の中にカテーテルを入れる際に針で皮膚を刺しますので、痛みがあります。また治療中に、冠動脈の中で風船をふくらましている間は、普段の狭心症と同じ症状が起きますが、すぐにおさまります。この他には、基本的に痛みはありません。長い時間寝ていると腰が痛くなってしまふ方は、その都度対応させていただきます。女性に関しては尿道カテーテルを挿入させていただきますが、男性に関してはアキシールカテーテルという、尿道に管を入れなくても尿を回収できるような器具を用いております。